

fax 03-3595-6920 email t-hatsu@tokyo-np.co.jp

T O K Y O 発

T 発

### 日中国交正常化40周年

中華料理店が集まる蒲田の名物として知られるパリパリの「羽根付きギョーザ」は、約30年前、中国残留孤児が開いた小さな店から生まれた。地域住民や支援者のカンパで開いた店は繁盛を続け、日中国交正常化40周年の今年、チェーン網は10店の大台に乗る。

## 残留孤児の蒲田名物店 誕生物語

「多い日は一万個もつくりま  
生き別れた。十一歳だった。掃除  
の仕事をしていた中国人の母は病  
気がちだった。三人の弟と、ソ連  
兵の捨てたジャガイモの皮やパン  
の耳を拾って食べた。見かねた近  
所の人から「トウモロコシ二十五  
キと引き換えに、弟さんを養子に  
と申し出を受けたこともある。  
成人して中国人と結婚し、二人  
の子供ももうけたが、死んだと思  
っていた父から「日本に来い」と  
何通も手紙が届くようになった。

中国残留日本人 第2  
次大戦末期、中国・東北  
地方(旧満州)へのソ連  
軍の侵攻で、肉親と離れるなど  
中国残留を余儀なくされた日本  
人。厚生労働省によると、日中国  
交が正常化した1972年から2  
011年12月末までに、中国人の  
養子となった「残留孤児」255  
1人、中国人の妻となった「残留  
婦人」4118人の計6669人  
が日本に永住帰国した。その家族  
も含めると計6665世帯、2万  
8333人となる。1981年に残  
留孤児が来日して肉親を捜す「訪  
日調査」が始まり帰国が本格化し  
たが、日本語習得や就労などで困  
難に直面する例が多い。

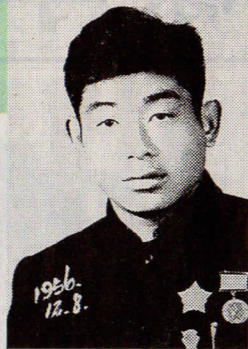
1983年、店のオープンで笑顔を見せる八木さん(左から2人目)と善元幸夫さん(同3人目)＝いずれも八木さん提供



1980年、移り住んだばかりの江戸川区の自宅で家族と食事をする八木さん(左から2人目)



1956年、22歳。「労働優秀青年」に選ばれた勲章を胸に着ける



4歳の八木功さん(前列右から3人目)。1938年、中国・旅順で



## 街の支援

# 詰まったギョーザ



焼きたての「羽根付きギョーザ」を手にする八木功さん

## 文革では「日本鬼子」

中国で生まれ育ち、青年期は「自分は中国人」だと思っていた八木さんだが、反日感情が広がった文化大革命では、差別など苦境に立たされた。十六歳から大工仕事を始め、大連市から三年連続「労働優秀青年」の表彰を受けた。しかし、文革が始まると、勤め先の壁に「日本鬼子」と蔑称が張られた。父が日本人であることは話していないのに、なぜか周囲に知れ渡っていた。日本にいる父からの手紙は、最初は文革直前の一九六〇年代前半に届いた。突然、自宅を訪れた公安当局者から渡された。日本製のラジカセも届いた。日本では普通の娯楽品だが、中国では普通の娯楽品だが、中国では持っていることがスパイと疑われる危険な品だ。上司に相談すると「おまえを信じる。手紙も出し

より恥ずかしきはなし。反省して欲求より遠ざかれ、とらなる塵泥に入りて貪愛の念で争う意。万事自然に任すべし、う年水がさらさらと浅瀬を流れる心境であれば万事快調 たつ年誰人も千の眼に見られ千の耳に聞かれ千の心に思われていよみ年 言葉や行動に移るまえによよそその心を察して後に出づれば失敗はない うま年 もつ裸に遊ぶがよろしい とり年 真価に非ず、人知れず真価を守(松雲庵主)

- 1931年 9月18日 満州事変発生。日本からの移民が本格化
- 34年 7月9日 八木功さん、中国・旅順で生まれる
- 37年 7月7日 日中戦争始まる
- 45年 8月8日 ソ連、日本に宣戦
- 45年 8月15日 日本無条件降伏、太平洋戦争終結
- 49年 10月1日 中華人民共和国成立
- 66～76年 文化大革命
- 72年 9月29日 田中角栄首相が訪中、周恩来首相と日中共同声明に署名し日中国交正常化
- 79年 6月 八木さん、日本に帰国
- 81年 厚生省(当時)が中心となり中国残留孤児の訪日・肉親捜し開始
- 83年 12月 蒲田に「你好」開店
- 2012年 9月 日中国交正常化40周年

### 日中関係と八木功さんの歩み

文・滝沢学／写真  
・佐藤哲也／紙面構  
成・杉山真一

お断り 「社長日記」は休みました。

父は親戚と大田区で暮らしていた。中国では建築会社で現場監督を任せられ、生活は安定していた。「また一から苦労するのか...」。迷いもあったが、父との再会の思いが勝った。四十五歳を目前に、日本へ渡った。

中国で覚えた料理は学校の先生に振る舞った。「水ギョーザやイシモチのあんかけ。つくる料理のすべてがおいしかった」。当時、葛西小の日本語学級教員だった善元幸夫さん(左)は、振り返る。そんな声に背中を押され、料理人になろうと恵比寿の中華料理学校に入学した。

中国では、ギョーザといえば水ギョーザだが、日本で焼きギョーザのおいしさを知る。焼くときに水溶きの小麦粉を少しかけ、パリッとした薄皮をつける大連の焼きまんじゅうをまねて、ギョーザを焼いた。「羽根付きギョーザ」の誕生だ。

料理の腕を上げて開店資金がなかった。恩師らの食事会で悩みを打ち明けたら出席者が次々カnpaを表明した。大田区議に初当選したばかりの松原忠義・現大田区長(左)もその一人。「地元のガッツのある人を応援したかった。町会長さんらへのあいさつ回りに同行しました」と話す。

教員らのほか、町工場や商店の主人、主婦...。約八十人が三百七十万円を寄せた。八三年、テール五車の「你好」を開店したら、行列ができた。「お客さんを持たせたくない」と店を増やしたが、賃料が高い都心を除き開店時の「焼きギョーザ六個三百円」を守る。本店には、支援者の名前を記した額を掲げている。

「皆さんの応援なしには、ここまでではられません。おいしいものを安く。これが私の譲れない考えです」

ね年 猿猴が月をとらえんとして取れざる象。無理な事をすれば水中に落つ うし年 多欲

### 運勢

26日(仏滅)